

# 史跡和歌山城第36次発掘調査 現地説明会資料

平成26年1月18日（土）午後1時30分～3時  
和歌山城整備企画課・和歌山市教育委員会  
（073-435-1044） （073-435-1194）  
公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団  
（073-435-1129）

和歌山市は史跡和歌山城の保存整備事業を行っています。平成18年には御橋廊下<sup>おはしろうか</sup>の復元整備が完了し、一般に公開しています。その後、周辺（二の丸西部）整備のための遺構確認調査を実施してきました。

二の丸は藩主が生活し、政治を行ったところで、西部は大奥と呼ばれるエリアに相当します。平成20～24年度には御橋廊下に連なる二の丸北西部（大奥御殿向<sup>ごてんむき</sup>と呼ばれる藩主が生活した場所）で発掘調査を行いました。調査の結果、坪庭に設けられた漆喰<sup>しっくい</sup>貼りの池、「御座之間」床下の位置で地鎮・鎮壇土坑、奥庭の景石<sup>けいせき</sup>・植込石積<sup>うゑこみ</sup>・水琴窟<sup>すいきんくつ</sup>などの庭園施設、浅野期（江戸時代初期）の石垣など多くの遺構を検出しました。

本年度の調査地点は平成22年度の第33次調査で地鎮・鎮壇土坑を検出した「御座之間」などの部屋の南側隣接地にあたり、原図が文政8年（1825）の絵図「和歌山二ノ丸大奥当時御有姿之図<sup>わかやまにのまるのおおくとうじおんゆうしのず</sup>」に描かれた大奥中庭の園池遺構の存在が推定される場所でした。

## 1. 発掘調査の概要

- 遺跡名：史跡和歌山城
- 所在地：和歌山市一番丁3番地内
- 調査主体：和歌山市 まちづくり局 まちおこし部 和歌山城整備企画課  
調査指導：和歌山市教育委員会 生涯学習部 文化振興課  
調査機関：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
- 調査期間：平成25年8月27日～ 継続中
- 調査面積：420㎡

## 2. 調査の成果

発掘調査を実施した和歌山城二の丸西部は、建物配置などを描いた絵図「和歌山二ノ丸大奥当時御有姿之図」が残されており、その絵図をもとに、ある程度遺構を推定しながら調査を進めることができました。そして、実際に絵図と合致する大奥中庭の江戸時代後期の遺構などを確認しました。遺構は、江戸時代後期の石組池・玉石敷・飛石・植込石積などの庭園施設、中庭を取り囲む建物の礎石・根石・階段台石・石列などを検出したほか、絵図には描かれていない江戸時代中期の水琴窟<sup>すいきんくつ</sup>（？）や瓦積井戸、また江戸時代初期の浅野期石垣の一部などを確認することができました。

## 【主な検出遺構】

**石組池** 石組池は中庭の中央部で検出したもので、東西16.6m、南北7.2mの大きさです。平面形は幅2.0～2.5mの溝が「S」字を描くように造られており、いわゆる心字池（「心」の草書体に似せて造られた池）とみられます。池岸は、景石（庭石）とみられる球形や海蝕を受けた不整形な自然石を組み合わせ、石組護岸としており、一部には直径5cm程度の玉石を密に貼り付けた玉石貼護岸もみられます。石組の主体は砂岩の自然石を用いており、緑色片岩や花崗斑岩などが一部にみられます。また、池底は玉石貼護岸と同様に玉石貼りとなっ

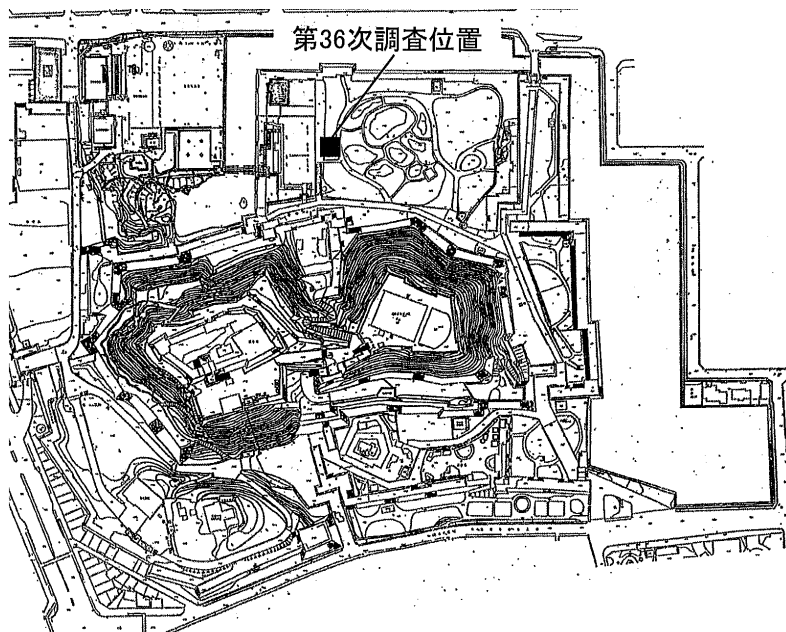
ており、流水を表現したような配列がみられる箇所もあります。南西部は標高が高く、2カ所の石段で段差を設け、それによって池底は上・中・下の3段構造となっています。高低差からみて、南から北側に水を流す仕組みとなっており、南西端部から導水したものと考えられます。玉石貼りの底には浮石とみられる緑色片岩の割石が2カ所、球形の花崗斑岩が2カ所に設置されています。池の深さは、浮石などの状況から20cm程度の浅い水深であったと考えられます。また、橋台石として、北岸に砂岩の切石1点、南岸に砂岩の割石1点が石組みに組み込まれています。

**玉石敷** 石組池の北側は直径1～3cmの玉石を厚さ5～10cmに敷き詰めた玉石敷となっており、絵図に描かれた、灰色で着色された範囲とほぼ一致しています。

**飛石** 絵図に描かれた飛石のうち、石組池の西で1点、北東で5点、南で3点の合計9点の飛石を確認しました。これらは直径35～50cmの板状などのもので、全て花崗斑岩の自然石を用いています。

**植込石積** 絵図にみられる植込は近代以降の攪乱でほとんど失われていましたが、植込の石積の一部を検出しました。植込石積は石組池の南側に、東西方向に積まれています。緑色片岩の割石を2～3段に積み、南側に面を揃えるもので、植込は北側に向かってスロープ状であったと考えられます。

**階段台石** 階段台石は、絵図にみえる「御対面所御下段」前の廊下の縁側から中庭に降りる階段を据えるもので、東西幅130cm、南北長100cmを測る砂岩の割石を用いています。台石の上面は丁寧に磨かれており、平滑な平坦面となっています。



史跡和歌山城第36次調査位置図

**浅野期石垣** 二の丸西部は徳川期に入ってから西堀を埋め立てて拡張したとされる部分ですが、拡張前の西堀石垣（浅野期）を平成 21・22 年度の 2 回の調査で深さ 1.6m、長さ約 27m分を確認しています。今回の調査で、その南側延長部分の一部を 2 ヲ所（北側と南側）検出しました。北側は、延長 4.2m、深さ 1.2mの範囲を検出しましたが、刻印「丸の内に三つ引」を 4 ヲ所で確認しています。南側のものは、延長 7.1m、深さ 1.1mの範囲を再検出したものです。これらの石垣は西側に面を持つもので、砂岩の自然石を野面積みにしており、間詰石や裏込石に緑色片岩の割石を用いています。砂岩石材は自然石を数個に分割したものもあり、矢穴跡や石垣刻印、石垣面をノミ加工で平坦化している部分などもみられます。

### 3. まとめ

今回の発掘調査では、和歌山城二の丸西部の大奥中庭に関連する遺構を確認することができました。石組池・玉石敷・飛石・植込石積などの遺構は、原図が文政 8 年（1825）の絵図「和歌山二ノ丸大奥当時御有姿之図」に描かれた大奥中庭の庭園施設に関するものとみられ、江戸時代後期の藩主の生活に関わる重要な遺構と考えられます。また、江戸時代初期の浅野期石垣や江戸時代中期の水琴窟(?)・瓦積井戸を確認したことも和歌山城の変遷を考える上で貴重な調査成果です。特に、中庭の中心部で検出した石組池は心字池とみられ、中庭は池泉回遊式庭園（池を中心に周囲を園路で散策できる庭）と呼ばれる形式のものであることを実際に確認したことなど、今後の史跡整備を進める上で貴重な資料であるといえます。



植込石積（東から）



階段台石（南から）



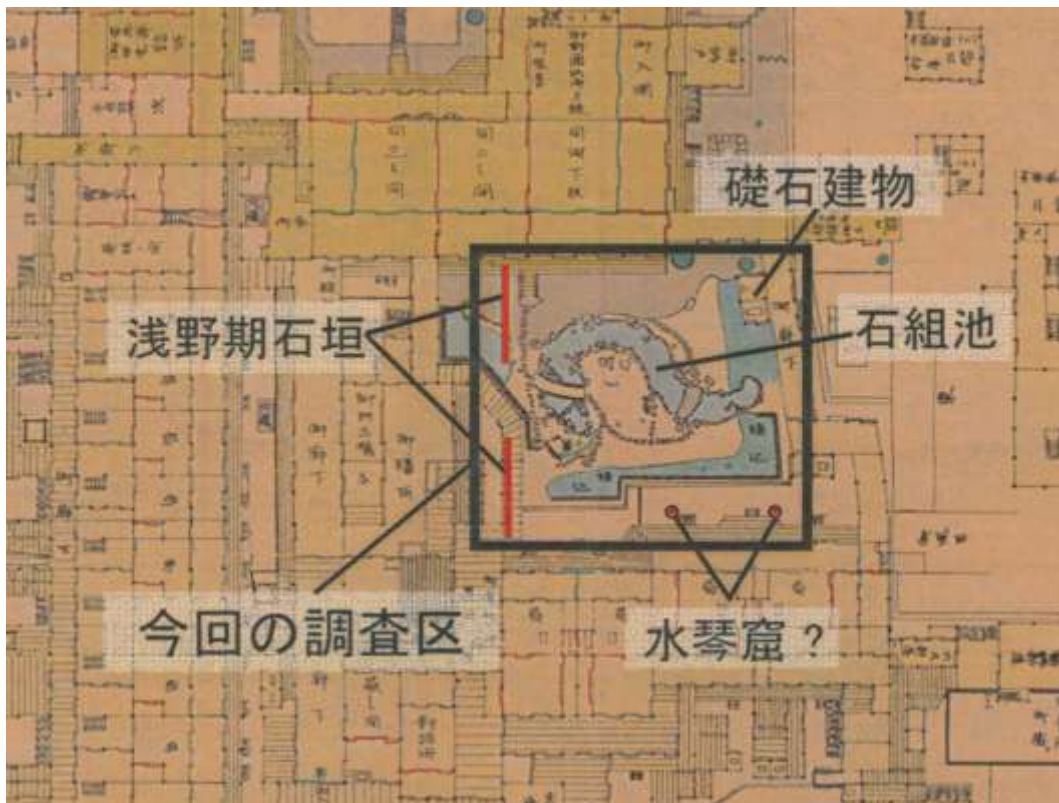
浅野期石垣（東から）



石垣刻印（東から）



石組池（南西から）



わかやまにのまるおおおくとうじおんゆうしのず

史跡和歌山城第36次調査（「和歌山二ノ丸大奥当時御有姿之図」に加筆作成）